

# 令和7年度 教育課程

## 1 教育課程編成の基本方針

浅羽学園の教育目標を受け、重点目標である「学び合い 認め合い 挑戦する笠原っ子」の実現を目指していく。この達成のために、**知・徳・体のバランスのとれた教育活動を推進**していくことで、本校が、主体的に学習へ取り組み、様々な関わり合いの中で協働する場所、教職員と子どもたちが共に一人一人を認め、大切にしていける場所となり、「一人一人が輝く学校づくり」を進めていく。

## 2 教育課程編成の重点

### (1) 【学び合い】「学びを楽しむ子」の育成

体験活動を取り入れた探究学習を中心に、**学ぶ楽しさ**が感じられる環境を整えていく。合わせて学習の習慣作りによる**基礎・基本の定着**を図り、学習の土台を強固にする。**話す・聞く力の育成**を図ることで、一人一人のよい点や可能性を生かした多様な見方や考え方を生み出し、**対話・協働学習の充実**を目指す。校内研修においては、継続した取組を深化、発展させつつ、子どもたちの主体性を育てる仕掛けをしていく。また、本を読むことを楽しむ子が増えるよう、新しいシステムが導入された**学校図書館**を効果的に活用して、**読書活動の充実**も図っていく。

### (2) 【認め合い】「お互いの良さを認め合う子」の育成

互いの良さに気付き伝えるために、子ども同士で認め合いの言葉掛けをする場の充実を図っていく。その際にどのような姿に対して言葉掛けが望ましいのか、学園全体で推進する**PBS**の考え方にに基づき、教師と子どもが共に分かる「**ほめる基準**」を共有、視覚化する。人間関係づくりプログラムの実施により、嬉しい、楽しいと感じられるかかわり方について体験する機会を設けていく。

### (3) 【挑戦】「心も体も元気な子」の育成

**運動の楽しさ**が分かる**体育指導**を進めるとともに、健康の日や健康推進活動等、メディアコントロールを中心に**自他の健康に関心を持つ保健指導**、給食提供に携わる人々に支えられていることが分かる**食育指導**を発達段階に応じて行い、一人一人の児童の心身の成長と充実を図る。また、外部人材や教材を積極的に活用することで、**体験を通して安全指導や防災教育**を学ぶ場を拡充し、児童の安全意識を高める。

### (4) 鼓濤教育の推進

「笠原に親しみ、笠原を自慢できる子」の育成を目指し、地域学習を年間指導計画に位置付

け、**地域人材との交流**をさらに深めていく。地域学習の中で**郷土愛の醸成**を図るとともに、地域を知り、調べ、まとめ、発信する**探究学習**を進めていく。

### 3 日課・週課における工夫

#### (1) 「学びのステージ」

学びづくりでねらう基礎基本の定着を図るため、水・金の朝の10分間を「学びのステージ」として設定し、児童の学びを支えるものへ取り組む。学年の発達段階に応じて、MIMによる音節指導や国語との関連読書、四則計算の練習、話型の体験など、国語科、算数科の内容に親しみ、取り組めるように各学年で計画的に行う。

#### (2) 「わくわくタイム」・「笠原タイム」

学年単位で昼に取り組む「わくわくタイム」に加えて、2、3時間目の業間に「笠原タイム」を設定する。「なかよし活動」や学級活動、委員会活動などと同様に、児童の「〇〇をしたい」という思いを大切にし、主体性を育む時間として使うことをねらいとする。笠小ランド（仮）やビオトープなど本校の特色に親しむ時間としても機能させていく。

#### (3) 「架け橋カリキュラム（スタートカリキュラム）」

1年生は、4月2週目～5月1週目まで、架け橋カリキュラム（園小の接続）の一環として「スタートカリキュラム」を実施する。幼児期からの学びを生かす活動や環境を意図的に設定することで、1年生が自信や意欲をもって小学校での生活をスタートできるようにする。園小連絡会や相互参観等を計画的に設定し、年間を通して架け橋カリキュラムに示す目標を園小で共有して進める。

#### (4) 「サマータイム」

夏季休業の前後において酷暑が予想され、7月～9月の第3週までをサマータイムとして特別な日課を設定する。屋外で活動できないと予想される日中の時間を下校時刻の繰り上げに充て、家庭で体調管理や十分な休息を取る時間がとれるように努める。これに伴い、各教科の年間指導計画を見直し、必要に応じて単元の入替を行う。

#### (5) 「放課後の時間設定」

月、火、水曜日に部会や会議、研修を集中し、木、金曜日の放課後に教材研究のゆとりをもたせる。職員打合せは、児童の安全確保のため、水曜日の下校後に行う。学び・生活づくり部会においては、部長を中心に部の目標を達成するため、各分掌を横断的に接続できるようにする。また、ペア学年を有効に機能させ、担任のみの判断で学年経営を進めることへの不安を解消するため、学習の進度や学年経営の悩み、校外活動や人材活用の見通しなどを日常的に共有し、問題解決に当たる。

#### (6) 「ペーパーレス化」

ミライムの掲示板やメッセージ、職員サーバーを活用することで、職員間の情報共有を確実にし、時間と資源の削減を図る。家庭連絡についてもコドモンを有効に活用する。

### 4 教育課程実施上の具体的配慮事項

(1) 横（家庭・地域・諸機関）や縦（浅羽学園各園・校）との連携を意識し、学びがスムーズに続くような教育の展開に配慮する。浅羽学園内の園小中学校を参観し、合同研修会

での交流をもとに、幼小中一貫教育を意識して教育活動を行う。

- (2) 地域の人・もの・こととの豊かな関わりを通して、実感を伴う体験活動を行う。そのためにCSD（コミュニティスクールディレクター）との連携を図り、地域の人材の活用を積極的に検討する。
- (3) 「学校評価アンケート」（未来を拓く）を行い、その結果をもとに、教育課程編成会議で教育活動を見直し、検討する。PDCAサイクルを充実させ、学校教育目標の実現に向けた教育課程の実践を目指して改善を図る。